

22 アルゼンチン

Argentine Republic

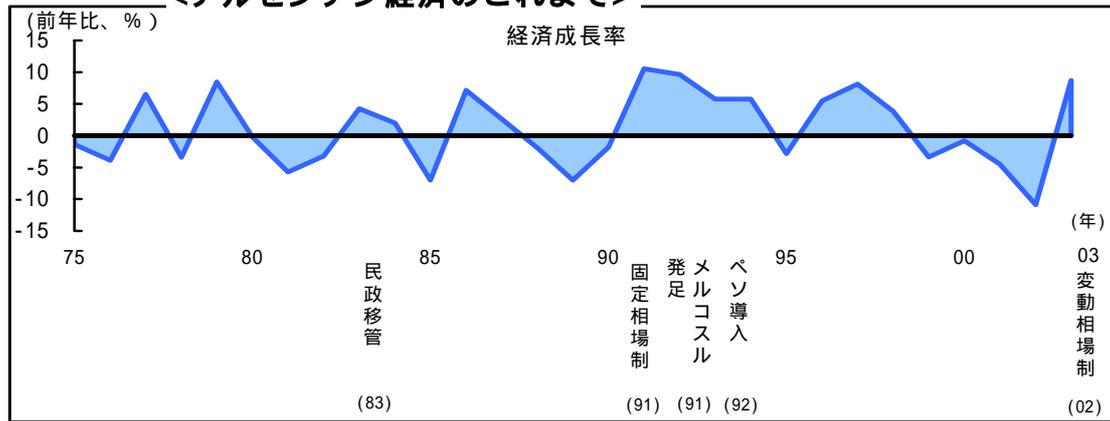
<2003年>

人口 3,798 万人
(日本の約1/3)
一人当たりGDP 2,687 ドル
産業構造(GDP構成比) 1次産業 11.0 %
2次産業 34.6 %
3次産業 54.4 %

財政会計年度 1月～12月
為替制度 変動相場制(注)
通貨 ペソ
1米ドル=2.9ペソ
面積 273.7万km² (日本の約7倍)

(注) 2002年2月より変動相場制に移行

<アルゼンチン経済のこれまで>



アルゼンチンの主要経済指標

		92～01年	2002年	2003年	2004年			
					政府	ECLAC	IMF	民間機関
実質GDP	前年比%	1.5	10.9	8.7	4.0	4.5	5.5	実質GDP
鉱工業生産	同上	0.5	10.5	1.3	-	-	-	平均 5.8
消費者物価	同上	4.2	25.9	13.4	-	-	6.7	最大 8.5
失業率	%	13.7	19.7	17.3	-	-	-	最小 4.5
経常収支	億米ドル	88.5	96.3	79.4	-	-	68.6	(6社)
(GDP比)	%	(3.3)	(9.4)	(6.1)	-	-	4.6	
財政収支	億米ドル	39.3	34.6	4.5	-	-	-	
(GDP比, 年度)	%	(1.4)	(3.4)	(0.3)	-	-	-	
政府債務残高	億米ドル	1,018	1,373		-	-	-	
(GDP比, 年度末)	%	(37.7)	(134.6)		-	-	-	

(備考) 1. アルゼンチン経済省、IMF “International Financial Statistics”、データストリーム。見通しの政府は財務省(2003年9月)、IMFは “World Economic Outlook” (2004年4月)。ECLAC (国連ラテンアメリカ・カリブ経済委員会)は “Balance Preliminar de las Economías de América Latina y el Caribe, 2003” (2003年12月)

2. 実質GDPの92～2001年は94～01年、鉱工業生産は95～01年、財政収支は93～01年の平均。

3. 失業率は2003年から推計方法が改定された。

<2003～2004年の経済>

2003年の経済成長率は、8.7%と99年以来のプラス成長となった。2002年の金融システム破綻以降、大幅に落ち込んでいた経済活動は、前年までの反動という要因はあるものの、個人消費や鉱工業生産、投資の増加により、景気は回復している。

2004年は4～6%程度の成長が見込まれる(政府見通し4.0%、IMF見通し5.5%、民間機関6社平均見通し5.8%)。これは、消費や投資が引き続き好調に推移し、世界経済の着実な回復により輸出の増加が見込まれることによる。なお、公的債務問題については、アルゼンチン政府の対民間債務元本75%カットなどの方針に対して、債権者等からの不満が出ており、再編交渉が難航していることから、今後の進捗状況が注視される。